

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

<p><b>清 冽 ゆかし、清水谷</b> 「朔風荒ぶ世なりとも（校歌）」潔さと正義感をもった「清冽」な生き方を希求し、市民としての力量を備えた、おとなを育てる。そのために、生徒たちには「背伸び」の楽しさを体得させ、教師は「背伸び」の面白さを伝え、安心して「背伸び」できる学びの環境を整える。</p> <p>1 学習活動の充実 自分には何がわかっていて、何ができないのかをマッピングでき、他者に適切に教えるを乞うディーセンシー即ち「ゆかし」の精神の涵養を基礎に、不断の授業改善を行い、質・量ともに充実した学習内容の提供に努める。また、生徒が主体的に学習に取り組む態度を養う。</p> <p>2 部活動の振興 部活動を通じてルールやマナー、豊かな人間性と社会性、チャレンジ精神並びに継続する力を養う。</p> <p>3 自治活動の尊重 体育祭・文化祭などの学校行事を通じて、生徒の自主、自律、創造する力を高めるとともに、集団と個人とのよりよき関係づくりを学ばせる。</p>
---

## 2 中期的目標

<p>1 学習指導の充実</p> <p>(1) 生徒に将来の夢と目標を明確にさせる指導を計画的・系統的に行い、その実現に向けての学習に取り組むことができる意欲を喚起するとともに、魅力ある授業の実践に努め、さらなる学力の向上を図る。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりが興味・関心と学習意欲を十分に持てるよう教育課程、授業内容について不断の検証を行う。また、毎学期の終わりに、学習状況等を振り返る時間を設定することにより、家庭学習の重要性を理解させ、予習・復習の習慣を定着させるなど、生徒が主体的に学習に取り組む態度を養う。</p> <p>(3) 講習、特別講座など学習指導を充実させる教育活動を幅広く実施する。また、生徒の多様な進路希望に対応できるよう、進路に関する資料・情報等を収集・整理し、適切に提供するとともに進路についての助言・指導を行うことにより、生徒の自己実現に努める。</p> <p>※ 生徒の学校評価に関する調査において、進路実現に関する項目の肯定率が 82.6%（平成 25 年度）であった。この数値が維持・向上する取組みを継続する。</p> <p>2 生徒指導の充実</p> <p>(1) すべての教育活動を通じて、生徒の自主性を育て、より望ましい人間関係を構築できるよう努める。</p> <p>(2) 生徒自治会、部活動をはじめとする課外活動の充実と振興を図る。</p> <p>(3) 教育相談体制の充実を図り、生徒一人ひとりにきめ細かい指導・支援ができるよう配慮する。</p> <p>(4) 「時を守り、場を清め、礼を正す」ことへの生徒の意識、意欲を涵養する。</p> <p>(5) 学校いじめ防止基本方針を踏まえ、生徒が安全で安心な学校生活を過ごせるよう努める。</p> <p>※ 生徒の学校評価に関する調査において、自治活動（平成 25 年度 89.0%）や部活動（平成 25 年度 95.8%）に対する肯定率は非常に高い。また、部活動加入率は 89.3%（平成 25 年度）と非常に高い。これらの数値が維持・向上する取組みを継続する。</p> <p>3 学校運営の充実</p> <p>(1) 情報の共有化と広報活動の充実</p> <p>ア 校内における情報の共有化を図るとともに、積極的かつ速やかな情報発信に努める。</p> <p>イ 中学生、保護者等を対象とする学校説明会等を計画的に実施し、本校教育活動に対する理解を深める。</p> <p>(2) 危機管理体制の確立</p> <p>ア 自然災害をはじめ、火災、事故や感染症等が生起する虞があることを常に念頭に置き、防災・危機管理体制を確立する。また防犯についても十分な体制をとる。</p> <p>(3) 施設、設備の計画的管理</p> <p>ア HR 教室、準備室、特別教室等、校地校舎全般にわたり、備品の整理保管及び施設の保全に努める。</p> <p>イ 機会あるごとに校舎、校具等への愛護心を養うように指導し、校内美化運動に取り組むとともに、環境問題についても関心を高める。</p> <p>(4) 生徒、教職員の健康管理</p> <p>ア 健康に関する関心を高めることにより、自己の健康管理に努める。</p> <p>イ 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化し、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。</p> <p>(5) 人権教育の推進</p> <p>ア あらゆる教育活動の場で人権教育を展開する。また、障がいのある者や在日外国人問題への理解を深める。</p> <p>イ セクシュアル・ハラスメント、体罰、児童虐待についての啓発を行うとともに、教職員の人権意識の向上を図る。</p> <p>(6) 地域連携の推進</p> <p>ア 学校、PTA、同窓会がひとつになって、本校における教育活動が充実する取組を行う。</p> <p>イ 部活動等においては、地域の文化の発展につながるような活動にも参画することを推進する。</p> <p>※ 生徒の学校評価に関する調査において、学校への満足度に関する肯定率が 89.8%と非常に高い。この数値が維持・向上する取組みを継続する。</p>
--

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学習状況を問うものについて、肯定率はほとんどの項目で昨年度同様の高い数字を保っている。唯一肯定率の低い「毎日家庭学習をしている」については 39.8%と依然低率ながら「毎日」という文言を加えた H21 年以来毎年数字は上がってきている（昨年度 33.8%）。</li> <li>今後も、公開授業や研究授業、教科及び教科間等における研究協議に取り組み、生徒が「能動的に学修する」土壌づくりをめざす。</li> </ul> <p><b>【生徒指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の、部活動・行事・クラス活動・自治活動に関する肯定率もきわめて高い数値を維持している。「悩みを相談したい先生がいる（45.9%：昨年度 46.7%）」は、文言を「相談できる」から「相談したい」に変えて以来数字は低いが、学年が上がるにつれて肯定回答が増加している。「人権教育」は昨年度の 81.3%から 66.3%に低下した。今年度は知識・スキル面のみならず人権尊重の基盤である自己肯定感の醸成に注力した（「学校の雰囲気がよく生徒全体が生き生きしている」ことを肯定した保護者は 92.5%：昨年度 91.8%）が、そうした取り組みも「人権教育」の大切な要素であることを実感できるように育てたい。</li> <li>今後も生徒の安全・安心を守り、背伸びのできる環境を維持する。</li> </ul> <p><b>【学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の「家庭との連絡や意思疎通」や「教育活動に必要な情報提供」を問う項目の肯定率（64.1%と 72.4%）はわずかずつだが、毎年上がっている。</li> <li>今後も学校 HP 等を通じて、中学生やその保護者等にも本校の実情が適切に伝わるよう広報活動や情報提供に努める。</li> <li>教職員の「相互理解や信頼関係に基づいた教育活動（75.9%：昨年度 71.7%）」を問う項目の肯定率は伸びた。「授業や評価を検討する機会（50.0%：昨年度 43.4%）」も上がってはいるが、教職員が満足している数値ではない。</li> <li>教職員間の情報共有や授業・評価のブラッシュ・アップの場等の充実をめざす。</li> </ul>	<p>第 1 回（6/3）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成 26 年度学校経営計画について、了承を得た。</li> <li>○ 2 年生進路 HR 視察後、生徒の熱心な姿勢について感想をいただいた。</li> <li>・ 進路状況やスタディ・サポート結果について報告。現役志向の強まりや学区変更の影響について意見をいただいた。</li> <li>○ 授業アンケートについて、生徒の「アンケート慣れ」を懸念する意見があり、アンケートの整理を実施することとなった。</li> </ul> <p>第 2 回（11/4）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業視察後、「おとなしい」「生徒の声が聞こえない」「対話が必要」等の意見が出た。「目的意識をもった想像力のある生徒が伸びていくので興味を抱く契機を与えてほしい」という総括に沿い、生徒たちの能動的な参加を促す「提案授業」等を展開していくこととした。</li> <li>○ 「学校教育自己診断」については経年変化を見るためにも昨年度と同内容とした。</li> <li>○ 「アドミッション・ポリシー」作成に関し、「普通科」の意義のとらえ直しや「清水谷の校風」について意見をいただいた。</li> </ul> <p>第 3 回（2/3）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学校教育自己診断の結果と分析」について、生徒・保護者いずれも高評価が多いことを確認。その中でも次の課題を見つけていく分析に共感の意見をいただいた。</li> <li>○ 本年度の評価案と来年度の計画案について、「評価指標の数値にはあまり意味はなく、自己評価はすべて○や◎でもよいのでは」との意見が大勢であったが、定めた指標に冷厳に沿うこととした。ただし、指標そのものが多義性やゆらぎを是らむものが多く、来年度はその点についての調査研究も進めることとする。たとえ、肯定率が 99.9%でも、残る 0.1%に寄り添う姿勢、数値に一喜一憂せぬ姿勢を今後も堅持することを確認した。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導の充実	<p>(1) 生徒の「企(せのび)」を支援するための取組み ア 主体性のある学習態度の育成</p> <p>イ 振り返りHRの発展</p> <p>ウ 講習や補習等の充実</p> <p>エ 進路指導の充実</p>	<p>(1) ア・新学習指導要領を踏まえ、主体性のある学習態度を育成するための学習指導方法について研究授業・研究協議を行う。 ・年2回実施する授業アンケートの結果を教員の資質向上に繋げる。</p> <p>イ・各学期末の「志学」の時間(名称:振り返りHR)に活用する学習を振り返るシートや進路意識の深化を図るシートの改善や振り返りHRの充実を図る事により、生徒の学習意欲の向上に努める。</p> <p>ウ・長期休業中や放課後等において、生徒の進路希望に応じた講習等を行う。</p> <p>エ・生徒の進路実現を支援するため、進路相談室の充実や進路のしおりなど適切な情報提供に努める。</p>	<p>(1) ア・生徒の学校評価における「授業のわかりやすさ」への肯定率が86.2%(平成25年度)と高い。今後もこの数値の維持・向上に努める。</p> <p>イ・生徒の学校評価における「家庭の学習習慣」への肯定率が33.8%(平成25年度)である。40%以上をめざす。</p> <p>ウ・センター試験の出願者数は64.6%(平成25年度)である。かつ、5教科の受験者数は出願者の38.8%(平成25年度)である。それぞれ80%以上、40%以上をめざす。</p> <p>エ・生徒の学校評価における「適切な進路指導」への肯定率が82.6%(平成25年度)と高い。今後もこの数値の維持・向上に努める。</p>	<p>(1) ア・83.5%であった。ただし、私たちの追求すべきものは「わかりやすさ」ではないと、方針を転換している。能動的に「参加」し、「対話」し、「わかりにくい」ことを「わかりたい」と希求する姿勢を今後養っていきたいと考えている。6月・11月を授業見学期間とし、教員相互の見学機会・回数は増えたが、上記目標に向かうためには、まだまだこれからである。その観点から先進校訪問(「学校経営推進費」)も実施した。(○)</p> <p>イ・「毎日の家庭学習」については39.8%。数値としては(△)ながら、この五年間漸増しており、手ごたえは感じている・</p> <p>ウ・各々70.5%(△)と42.4%(○)。夏季休暇中・短縮授業中の希望別講習は定着している。</p> <p>エ・今年も82.6%(○)であった。丁寧な個別指導はもとより3年間の個人データを蓄積し、精度の高い進路情報を提供するため、全生徒を対象に教育産業のサポート等を実施している。</p> <p>※生徒の「清水谷に来て良かった」89.7%、保護者の「行かせてよかった」94.2%はほぼ高止まりの傾向である。また、今年は生徒対象の評価項目20のうち9項目が過去最高の数値を示し、残り11項目が2位である。そんな中で、「楽しさ」や「満足度」だけでなく、目標を自ら見出し、他者と協働しながら自らを「内破」していく力を生徒自身も教職員も求め始めているように感じる一年であった。来年度はそうした胎動を啐啄できる動きを開始したい。</p>
2 生徒指導の充実	<p>(1) 自主・自律の態度を育む取組み</p> <p>(2) 配慮を要する生徒を支援する取組み</p>	<p>(1) ・本校の特色であるHR活動・自治会活動・部活動など生徒の自治活動を支援・指導することにより、生徒の自主性や自律心並びに人間関係形成能力を育む。</p> <p>・学校いじめ防止基本方針等に基づき、生徒が安全で安心な学校生活を送れるよう指導に努める。</p> <p>(2) ・支援教育コーディネーターや人権教育推進委員会・教育相談委員会・担任会からの申出により、場合によっては、スクールカウンセラーとの連携のもと、ケース会議を開催するなど配慮を要する生徒に対して組織的な指導・支援を行う。</p> <p>・遅刻や欠席等が多い生徒やその保護者に対して、丁寧な指導や支援を継続して行う。</p>	<p>(1) ・生徒の学校評価における「学習と部活動の両立」への肯定率は88.4%(平成25年度)も非常に高い。今後もこの数値の維持・向上に努める。</p> <p>・生徒の学校評価における「人権教育」に対する肯定率は、81.3%(平成25年度)である。今後もこの数値の維持・向上に努める。</p> <p>(2) ・生徒の学校評価における「相談したい先生」に対する肯定率は、46.7%(平成25年度)である。今後もこの数値の向上をめざす。</p> <p>・保護者の学校評価における「家庭への連絡や意思疎通」に対する肯定率は63.7%(平成25年度)である。65%以上をめざす。</p>	<p>(1) ・88.9%(○)。自然科学部化学班が大阪府学生科学賞において大阪府知事賞(最優秀賞)を受賞。合唱部がアンサンブルで府1位、全国大会に出場。近畿大会出場の部も多い。諸行事、クラス・自治会活動への満足度は高い。</p> <p>・66.3%(△)。満足度の高い学校生活のベースには「人権教育」がしっかり存在していることを伝えていく。「安全で安心な学校生活……」アンケートを含め、いじめ等の相談は0件。</p> <p>(2) ・45.9%(△)。SCの相談件数は50件(前年39件)、ケース会議は4回実施(前年3回)。</p> <p>・「家庭への連絡や意思疎通」64.1%(△)。</p> <p>・12月末までの出席状況は下記のとおり。 欠席総数 1600(前年1798, 前々年2324) 遅刻総数 1834(前年2056, 前々年4638)</p>
3 学校運営の充実	<p>(1) 真のPR(Public Relations)の充実</p> <p>(2) 校内組織の見直し</p> <p>(3) 学校、PTA、同窓会が一体となった取組み</p>	<p>(1) ・中学生やその保護者、在校生の保護者、卒業生をはじめ、多くの方に教育活動を理解していただくよう、学校HP等への情報発信を一層充実する。</p> <p>・学校説明会等を中学生やその保護者にとって、より良い内容にするよう工夫する。</p> <p>(2) ・将来構想委員会において、学年団や分掌の組織等について検討する。</p> <p>(3) ・生徒が自立した社会人として成長できるよう、同窓会やPTAと連携して、卒業生等を講師とした講演会などを企画・実施する。</p>	<p>(1) ・保護者の学校評価における「教育活動に必要な情報提供」への肯定率は72.1%(平成25年度)である。80%以上をめざす。</p> <p>(2) ・教職員の学校評価における「各分掌や学年間の連携」への肯定率は71.7%(平成25年度)である。この数値の向上をめざす。</p> <p>(3) ・各学期に1回、講演会等を実施する。</p>	<p>(1) ・82.6%(◎)。学校見学・説明会を5回実施、のべ2835名来校。当日アンケートの評価は各回ともすこぶる高い。</p> <p>(2) ・教員の「連携」肯定率は70.4%(△)。しかし、OJTの基盤である「問題意識や悩みを気軽に話し合える人間関係」の肯定は75.9%(前年67.9%, 前々年57.2%)。</p> <p>・将来構想委員会では副担任制度の在り方、教員相互の授業見学の活性化、アドミッション・ポリシー等について検討した。</p> <p>(3) ・清友会(在校生支援実行委員会)との協同で、「自主学習室」を週1回済美館にて開設。「先輩からのメッセージ」等卒業生等を講師とした講演会は学期に数回実施している。(◎)</p>